

上代における助詞モと希望表現の共起について

小池俊希

「雲だにも心あらなも[雲谷裳情有南畝]」（万葉一 18）のように、上代における助詞モには、希望表現と共起する用法があることが知られている。工藤美紗子（1963）『『も』という助詞の意味』（『文学』31）など、助詞モと共起する表現を整理した研究では、希望表現との共起が指摘されるものの、それぞれの希望表現ごとの差異については言及されておらず、その分類は「希望表現」までに留まっている。そこで、本発表では、「実現可能性」という観点から希望表現を整理することで、①「それぞれの希望表現が有する実現可能性の高低と助詞モとの共起のしやすさとの関係」と、②「助詞モの機能における、希望表現と共起する助詞モの位置付け」の2点を明らかにする。

まず、実現可能性による希望表現の整理と、上代の希望表現と助詞モとの共起の調査により明らかにする点は、以下の2点である。①上代の希望表現は、「ヌカ(モ)」・「ナム/ナモ」のように助詞モと共起しやすい希望表現と、「コソ」・「ナ」のように助詞モと共起しづらい希望表現とに大きく分かれる。②実現可能性の低い希望表現は助詞モと共起しやすく、それに反して、実現可能性の高い希望表現は助詞モと共起しづらい。

次に、希望表現と共起する助詞ハ・副助詞ダニと助詞モとの比較対照を行い、助詞モに反して、助詞ハ・副助詞ダニは、実現可能性の高い希望表現と共起する傾向にあることを確認する。助詞ハとの比較対照からは、同じく係助詞とされる助詞モと助詞ハの間にも、共起傾向に差異があることを確認する。そして、副助詞ダニとの比較対照からは、〈譲歩〉の用法を持つとされる助詞モと副助詞ダニとの間に共起傾向の差異があることから、希望表現と共起する助詞モの機能は、〈譲歩〉とは理解しがたいと考える。そして最後に、実現可能性の低い希望表現と共起することが助詞モのみに見られる特徴であることから、希望表現と共起する助詞モの機能は、終助詞モや「～モ～カ」を形成する助詞モが有する機能に関係づけられると指摘する。